

報告日 令和7年12月9日  
報告回次 2日目

## 令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	上川管内電算事務共同処理協議会			代表者名	会長 山本 進
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	事務局	連絡先電話番号	0166-83-2335
担当者役職	事務局長	担当者氏名	長野泰定	連絡先E-mail	
住所	071-1511 北海道東神楽町北1条西1丁目3番16号				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	東神楽町	連絡先部署	総務課	
担当者氏名	深田佑斗	連絡先電話番号	0166-83-2112	連絡先E-mail

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	DX推進の広域連携	
概要	DX推進の広域連携を推進するための職員研修に対する支援			
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） ネットワークインフラ（Wi-Fi／LPWA／光ネットワーク） テレワーク 自治体システムの標準化・共通化 行政手続オンライン化 自治体セキュリティ			

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月27日	事前打合せ&講演（実地）	10時30分	17時00分	60
			活動時間（分）	330	
派遣場所	会場名	東神楽町文化ホール花音		最寄駅	旭川空港
	所在地	北海道上川郡東神楽町南1条西1丁目3番2号 東神楽町複合施設はのわ内		最寄駅からの交通手段	旭川空港から車で5分程度

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	高橋 邦夫
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	自治体職員として長年、情報システム部門の実務を担当され、庁内ネットワーク、情報セキュリティ対策、ICT導入など現場の細部まで熟知されています。「現場を知る専門家」としての講演には、説得力があります。
アドバイザーへの要望事項	要望事項は特にありません。満足しております。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	85人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	46		39

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	当協議会を構成する上川中央部7町におけるDX推進に向けた課題としては、次に掲げる事項があげられる。 ・標準化移行後、政府クラウド移行後のセキュリティをどうするかという共通の課題 ・上川中央部のような小規模自治体においては、三層分離後のネットワーク構成をどうするかという共通の課題
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	ゼロトラストによる新しいセキュリティ概念の導入と、自治体職員の業務効率化を目指した3層分離の見直しが、住民サービスの向上に寄与することを目指す。また、改訂された情報セキュリティポリシーを理解し、マイナンバー利用系とLGWAN接続系の統合に向けた実践的アプローチが地域のデジタル化を加速させることを目指す。

	<p>令和7年11月27日（木）に当協議会主催で「標準化時代の自治体DXセミナー」を開催し、高橋邦夫氏には、第3部 基調講演「安心して進める自治体DXへ：重点取組事項に情報セキュリティがある理由」で登壇いただきました。</p> <p>高橋氏による情報セキュリティに関する講演では、自治体DXと情報セキュリティの関係性、特に「3層分離」の現状と将来像について詳細な解説がなされました。</p> <p>講演の冒頭では、2024年5月末に当時のデジタル大臣である河野太郎氏が「3層分離を辞める」と発言したことについて触れ、この発言の背景にある「国地方ネットワークの将来像および実現シナリオに関する検討会」の報告書について説明しました。この検討会は武藏大学の庄司先生を座長とし、セキュリティの専門家やデジタル庁、総務省の関係者が参加して行われたものです。</p> <p>報告書では3層分離の「見直し」が提言され、その代替として「共用化されたネットワーク基盤」の構築が提案されました。この新しい基盤では、自治体職員が1台のパソコンで様々な情報システムにアクセスできるようになり、現在の複数台のパソコンを使い分ける必要がなくなることが説明されました。この実現は2030年頃を目標としており、次期LGWANの検討の中で進められる予定と示されました。</p> <p>この新しいセキュリティ概念として「ゼロトラスト」が紹介されました。従来の「境界型」セキュリティでは組織内部を安全とみなす考え方でしたが、ゼロトラストでは組織内外を問わず、常に認証を行い、情報へのアクセス権を確認する方式です。これにより1台のパソコンで全ての業務が行えるようになり、利便性が向上します。</p> <p>高橋氏は総務省の情報セキュリティポリシーガイドラインの改訂検討会の構成員として、最近の改定内容についても説明しました。2025年3月の改定では、マイナンバー利用系とLGWAN接続系のパソコンを1台にすることや、マイナンバー利用系での無線LAN利用が条件付きで認められるようになりました。ただし、総務省は特定個人情報の漏洩リスクに対して非常に慎重な姿勢を示しており、厳格な条件が設けられていると解説しました。</p> <p>講演では、3層分離が導入された背景として2015年の日本年金機構の情報漏洩事件（125万件の年金情報がインターネットに流出）が紹介されました。この事件を受けて、マイナンバー制度の導入前に情報セキュリティ対策として3層分離が実施されたという経緯を説明しました。</p> <p>また、2024年10月の改定では、個人情報の機密性分類が見直され、機密性3（最高レベル）がA・B・Cに細分化されたことを説明。これにより、一部の個人情報（機密性3C）はインターネット上のクラウドサービスで扱えるようになり、利便性向上が図られていると説明しました。</p> <p>高橋氏は自治体DXと情報セキュリティは「車の両輪」であると強調し、一方を進めるためには他方も同時に進める必要があると述べました。自治体DXの目的は職員の働き方を変え、バックヤード業務を効率化することで、本来の住民サービスに時間を割けるようにすることです。</p> <p>講演の最後には、岐阜市のがん検診結果誤通知事件を例に挙げ、人的ミスを防ぐためにはデジタル化が不可欠であると指摘しました。ダブルチェックやトリプルチェックといった人海戦術ではなく、デジタル技術を活用することで、より安全で効率的な業務遂行が可能になるとの見解を示しました。</p> <p>高橋氏は「誰一人取り残さない社会」を実現するためには、自治体DXを進めると同時に情報セキュリティも考慮することが重要だと締めくくりました。</p>
<p>支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>高橋氏は自治体DXと情報セキュリティは「車の両輪」であると強調し、一方を進めるためには他方も同時に進める必要があると述べました。今回の講演を受けて、自治体DXの目的は職員の働き方を変え、バックヤード業務を効率化することで、本来の住民サービスに時間を割けるようにすることであることが理解できました。</p> <p>また、情報セキュリティ対策を進めることが、結果として、住民の幸福につながるという考え方がセミナー参加者に伝わりました。</p>
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 <span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 2px;">⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</span></p> <p>自治体がDX推進していくにあたり情報セキュリティ対策の重要性について理解を深めるものであり、具体的な成果物を求めるものではない。</p>
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)</p>	<p>解決されなかったり持ち越しとなったりした内容は特にありません。</p>
<p>アンケートの内容と分析結果</p>	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>アンケートの設問「DXセミナーでどのようなことを習得しましたか」という設問対し、回答されたキーワードの一部は次のとおりです。</p> <p>「DXのあり方や、2030年、40年問題の考え方」「機運醸成に管理職を対象にワークショップをしてみようと思います。」「標準化のこれからとセキュリティについて」「働く人が減っていくときにどのような仕事をDXに任せせるのかを考えるヒントをもらった」「未来の自治体の姿について想像するきっかけになった」「小規模自治体におけるDXの推進について、広域連携や外部人材の活用、また機運醸成の必要性を感じました。」「2040年問題について各自治体対策を考えなければいけない。その中でDX化は有効だということ。」</p>
<p>4-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい <span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 2px;">④予算以外で、今後取組む事項がある</span></p>
<p>4-4. 事業の最終的な目指す姿</p>	<p>地域連携を模索する機運を高め、DX推進を通じて住民サービスの向上につなげたい。</p>

5.報告書についての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

掲載許可 ○掲載可

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における**地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」**を数枚程度貼り付けて下さい。

